JICC ニュースレター 2019年 101号

ベトナム医療機器市場について

ベトナムの医療が今後どうなっていくのか、医療機器に関する情報は今後のベトナムの医療を見ていくうえで重要である。そこで、過日ホーチミン医療機器協会 Hua Phu Doan 副会長による 2018 年医療機器市場に関するセミナーが開催されたので、医療機器メーカー、その他ベトナムに対する投資に関心のある会員のためにここに紹介する。

データはやや古いが、(当 NPO JICC の設立準備に入ったころ)、2013 年のベトナムの医療機器市場の規模は、6 億 4,500 万米ドル(約 7,095 億円)で、1 人当たり 7 米ドルとなっている。ちなみにタイ : 12 米ドル、マレーシア : 35 米ドル、国際平均 : 50 米ドル、シンガポール : 103 米ドルとなっている。その後ベトナムにおける、2013 年から 2018 年の 5 年間の医療機器市場の伸びは、平均成長率で 16.6%となり、今後も継続的に成長が期待されている。医療機器市場は 2018 年度中には、2013 年の市場規模の約 2 倍の 14 億米ドル (約 1,540 億円) になる見込みとされている。それでも日本の医療機器市場は約 3 兆円であることから、ベトナムは約 20 分の 1 であり、ベトナムでの 2018 年の 1 人当たり医療費は 14.5 米ドルであり、成長ポテンシャルが高いと言える。

これら市場規模と成長を支える、ベトナムの概要であるが、人口 9,650 万人、2017 年度の GDP : 2,200 億米ドル, 経済成長率 : 6.81%、一人当たり GDP: 2,185 米ドル (日本 : 38,500 米ドル) となっている。社会主義の国であり、公立病院が 88% (1,400 施設)、民間医療機関が 12% (200 施設以上)。また、ベット数については、公立病院で 232,902 床(77.5%)、民間で 11,917 床 (4%)、その他専門クリニック、ヘルスステーション、助産院などで 55,860 床 (18.5%) である。圧倒的に公立病院が多い状況にある。さらに海外からの病院参入も含めて 2017 年から 2022 年までの 5 年間で医療施設は 20%前後の伸びを示し、1,890 以上に増加するとしている。ベトナム保健相は 2016 年に GDP の 6.1%を医療費に投入しており、増額傾向にある。

ちなみに世界で一番病院数が多い国である日本は 2016 年に 8,442 に減少している。米国は日本に次いで 2016 年 5,564 である。(OECD)

このような視点からベトナムの医療を投資先として見た場合、投資先として大変有望な国とされており、医療と並び IT 及び通信、繊維、電子機器が 4 大有力セクターとなっている。

ベトナムの医療機器の内 90%は輸入品。その合計輸入額は 2017 年 1,101,650,775 米ドルで、その輸入相手国上位 5 位は、1 位アメリカ 212,227,391 米ドル (19.3%)、2 位ドイツ 175,158,486 米ドル (15.9%)、3 位日本 142,005,477 (12.9%)、中国 (11.2%)、韓国 (8.4%) などであり、輸入全体の 67.7% を占めている。また、輸入額の 30%を MRI、CT スキャナ、超音波診断装置、X 線診断装置が占めている。

これをさらに 2017 年の医療機器輸入構成を見てみると、内視鏡 (4%)、マサージ器

さらにこれを、2017年の国別輸入構成でみると、ドイツ：　人工透析装置（5%）、内視鏡（5%）、麻酔器（3%）、ペースメーカー（7%）、X線診断装置（10%）、眼科用機器（4%）。日本：超音波（27%）、患者用モニター（7%）、X線診断装置（7%）、眼科用機器（8%）、人工透析装置（4%）、内視鏡（15%）、血圧モニター（4%）、その他28%）であった。

以上ベトナムにおける今後のビジネスの機会として総括すると、医療セクターの成長率は高いことが伺え、海外の多くの企業が参入を検討している。このことはベトナム国内では生産率がまだ低く、95%を輸入品に依存していること、また、急速な高齢化にもあり、今後、医療費の増大、年金、社会保障費の増大などを考えると、医療部門は有望な市場となるとしている。

現在ベトナムには50を超える医療機器製造業者がおり、その多くが基本的な医療製品を取り扱っている。ベトナム政府は国内的にも、医療分野への投資優遇政策を実施する一方で、一般医療機器の国内生産率を60%までに高めようと目標を掲げている。

さらに投資先のトレンドという視点からは、疫学モデルの変化（がん、心血管疾患、代謝性疾患などの非感染性疾患の他、外傷の増加）に伴い、ベトナムの医療費は増加傾向にあり、画像診断、手術室、救急医療設備、検査設備（古い設備の交換）など、医療機器への需要が高く、今後、

1）医療機器産業向け支援技術、
2）テクノロジー＆付加価値、
3）遠隔診断絵のIT導入、
4）医療施設用家具
5）医療機器の各種企画試験

の分野が有望と考えられる。

2018年ハノイで医療セミナーの開催

2018年9月、ベトナム農業医科大学を会場として医療セミナーが開催された。現地でのセミナー開催は2回目であるが、今回は当センター吉川佳秀副理事長による「日本の癌治療の最前線」、遺伝子治療のGEM株式会社の竹内則夫代表取締役による「がん遺伝子治療について」の講演であった。出席者は医師を含み看護師、その他現地医療関係者が40名以上で、多くの質問が出るなど大変盛会であった。定款にもあるよう、セミナー開催はベトナムでのがん医療技術の向上に資するのみならず検診など予防の重要性の啓発、その他サプリメント等を含め総合的な視点からがんと対峙する活動を行っていきたいと考える。次回は国立がん研究センター、社会と健康研究センター長の津金昌一郎先生（日本疫学会会長）に、生活習慣病を踏まえた「がん予防」並びに健診の重要性についての講演をお願いしたが、、現地学会と一緒に行うことになった。

編集後記：今年はアウトバウンドに力を入れた活動を流します。JICCのパンフレットができました。

編集責任者：NPO日本国際がん患者支援センター　堀田健治
東京都中央区新川1-6-11　ニューリバータワー　03-6280-5